

浅井敬壹先生による練習ポイント

夕焼け

- p2-5 出だしの男声：pと書いてあるが、客席の一番後ろへ届ける気持ちで。pの緊張感はあるが、あまり小さく、と思わなくても良い。
- p2-5 男声「ゆうやけーは」の4拍めの裏のラの音は明るく歌う。
- p3-13「せかいがへいわなら」歌詞に書いてあるからではなく、本当にそう思って歌う。
- p4-19「平和であれば夕焼けはばらいろ」前へ進んでいく気持ちで。
- p4-22 お腹でしっかり支えたfで。特にソプラノは音が下がってもテンション下げない。
- p5-28 ソプラノ「見ても」の「も」飛び出さない。語尾として自然に。
- p6-36 アルト：メロディーなので悠々と歌う（lontanoを取っても良い）。
- p6-36 バス：メロディーが聞こえるように悠々と。ルの響きを意識して。
- p6-40 アルト：低音をもう少し響かせて。
- p9-52「ゆうやけが」の3声（アルト・テノール・バス）ばらつかないように。
- p9-53 視線を下にせず、夕焼けを見て歌う。火や血の色であってはならないという気持ちを込めて。
- p9-54 4拍め アルトのラの音は明るく。
- p9-59「絶対にあってはならない」という気持ちを込めて。
- p11-64 ソプラノ・アルト：はっきり歌い出す。
- p11-67 A：「願いを込めたA」で。

練習へ来れなかった方へ：

浅井先生は「pは緊張感はあるが、あまり小さく歌おうと思わなくてもよい。響かせて歌ってください」とおっしゃっていました。
「客席の一番後ろへ届くように」とのことです。

大地讃頌

- 出だし：母の懷に抱かれている気持ちで歌い出す。
- p37-10 平和で地雷の埋まっていない土の上に立てる喜びを込めて。
- p39-27 前へ進んでいく。
- p41-43 pだがしっかり歌い、前へ進む気持ちで。
- p42-54「だいちを」3・4拍めをそれぞれ分けて振っておられました。
最後の「を」はかなり長め。最後のページは楽譜を見ず指揮に集中を。

「夕焼け」も「大地讃頌」も、練習よりテンポが速めでした。

参加できなかった方は音源を聴いて浅井先生のテンポを感じてください。